

ブンガク最前線——北九州発

館長 今川 英子

電子情報網の発達で、人はいつでもどこでも瞬時のうちに他人と通信できるようになったけれども、反比例するように言葉そのものは力を失っているように思われます。

単純な簡略化された言葉でつながったと思つた瞬間、そこから零れ落ちていくものに目を瞑ってしまっている自分に違和感を覚えるのは筆者だけでしょうか。

その重なりが、空疎な言葉の羅列ではなく、誠実に選り抜かれ彫琢された言葉を切実に求めます。つまりは文学です。文学作品とは、言葉によって創造された、政治、経済、社会、哲学、歴史、全てを包括した最高度の知的営為だと思つています。

さて、秋の特別企画展では、散文を中心に北九州ゆかりの現役作家の方々と作品をリアルタイムで紹介いたします。

この街で生まれた、育った、暮らした、あるいは住んでいて、文章を書くことを生業に活躍されている方が、こんなにもたくさんいらっしゃることに改めて瞠目します。ところがこの街に住んでいる多くの方々はそのことをあまりご存じありません。八幡西図書館がオープンした折にも北九州ゆかりの文学者についてお話しさせていただきましたが、聴講者のほとんどが、例えば地元出身の松尾スズキさんを知りませんでした。松尾さんは劇団を主宰する一方で、黒崎を舞台にした小説(小説では白崎)で芥川賞候補にもなっています。折尾周辺の出身者には松尾さんの他に、平野啓一郎さん、発行部数累計五三〇〇万部を超える佐伯泰英さんがいらっしゃいます。

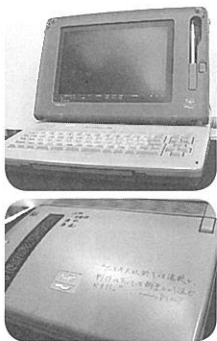
現在、某全国紙の朝刊には平野さん、同紙の夕刊には小倉出身の葉室麟さんが小説を連載されています。門司ゆかりの高橋陸郎さんや藤原新也さん、平出隆さん、八幡ゆかりの村田喜代子さん、佐木隆三さんもご著書の出版の他、度々、新聞、雑誌等にエッセイや評論をお書きになっていらっしゃいます。他にも記録文学、ノンフィクション、児童文学など、それぞれの分野で執筆されている方が大勢いらっしゃいます。

どうしてこの街からこんなにも多くの作家が輩出するのでしょうか。

大陸に近い九州の玄関口として陸、海、交通の要衝であり、一方で明治以降、重工業都市として急激な発展を遂げるなかで、周辺から異なる文化や習慣をもった多くの人々が集まり、行き交ったことによる衝突の結果でしょう。

あるいは重工業都市から環境未来都市へと生まれ変わりつつあるように、時代の要請に添ったため新陳代謝を遂げる街のエネルギーが、書くことを促すのでしょうか。

「文学離れ」が指摘されて久しい昨今、潜在する新たな層の掘り起こしも願いつつ、この展覧会が、街の誇り、シックプライドの醸成につながることを念じます。



平野啓一郎さんワープロ「日蝕」「一月物語」「葬送」など初期の作品執筆時に使用した。

目次

○ ブンガク最前線——北九州発	1	○ ビーターと一緒に！写真撮影会	
○ 第19回特別企画展 没後99年 夏目漱石—漱石山房の日々	2	○ 子ども俳句講座	6
○ 開会記念講話「愛を追う漱石」		○ 文学館協力事業 村上春樹国際シンポジウム	
○ 夏目房之介さん講演会	3	○ 文学館協力事業 女性の眼と句で綴る演劇「花、盛ル」	
○ 文学講座「漱石の遺した〈文学の力〉とは何か」		○ 劇団青春座創立70周年記念「久女の恋」	
○ 夏目漱石探訪日帰りバスツアー		○ 心輝書道会選抜成華支部展「生誕百二十五年 杉田久女の句を書く」	
○ MY FAVORITE SOSEKI		○ 文学館セミナー	7
○ 第20回特別企画展『ビーターラビットのおはなし』	4	○ 『文学館文庫9 みずかみかすよ作品集』刊行	
○ 開会記念講演会	5	○ 上半期に行われた「偲ぶ会」の紹介	
○ 絵本のよみかかせ会		○ 浦橋七郎の戦時記録集刊行	
○ ビーターラビットをモチーフにしたカルトナーージュ教室		○ お悔やみ	
		○ 第21回特別企画展開催予告「ブンガク最前線—北九州発」展	8
		○ 寄贈者・提供者、提供雑誌	



第19回特別企画展

平成27年5月2日(土)～6月21日(日)

没後99年

夏目漱石 - 漱石山房の日々



2016年は私たちの誇る国民作家・夏目漱石の没後100年、来熊120年、翌17年は生誕150年にあたります。夏目漱石・記念年実行委員会が発足するなど、全国的にも盛り上がりが増す中、夏目漱石の没後「99」年展を開催しました。

○第一部 〈漱石山房〉の夏目漱石

朝日新聞社への入社に始まる職業作家としての充実した創作活動や、山房に集う若い人々との交流をたどりました。芥川龍之介のデビュー作「鼻」を激賞した有名な手紙や「こころ」の直筆原稿など、皆さん熱心にご覧になりました。

○第二部 自伝小説「道草」―半生をふりかえる

唯一の自伝的小説「道草」から、その前半生をたどる内容です。漱石の人間形成に大きな影響を与えた養子体験の資料などを紹介しました。「吾輩ハ猫デアル」初版本（書肆吾輩堂蔵）の前では、美しいアンカット本から100年前の優雅な読書に思いをはせる方が多くありました。

○第三部 九州とのゆかり

熊本滞在時の資料や、漱石の愛弟子で福岡県みやこ町出身の小宮豊隆旧蔵資料を紹介しました。

北九州では初の大規模な夏目漱石展



石田忠彦さん

開会記念講話「愛を追う漱石」

平成27年5月2日

石田忠彦さん(鹿児島大学名誉教授)を講師にお迎えし、ご講話いただきました。例えば、漱石ほど男女の三角関係をつきつめ、書き続けた作家があるでしょうか。恋愛小説家としての夏目漱石に来場者の方々も興味津々。講演後は講師の著書を購入する方が続出しました。

で、市内はもとより熊本や広島など県外からも多くの方にお出でいただきました。若い方の姿をよくお見かけしたのもうれしいことで、今も多くのファンを持つ漱石文学の力を強く感じました。

【共催】朝日新聞社

【協力】公益財団法人日本近代文学館、県立神奈川近代文学館・公益財団法人神奈川文学振興会、岩波書店、熊本近代文学館、みやこ町歴史民俗博物館、姫路文学館、梅光学院大学、小倉昭和館

【協賛上映】「それから」ほか3本(小倉昭和館)

展示資料点数 約170点
(担当 中西)

夏目房之介さん講演会

平成27年5月9日

北九州芸術劇場中劇場

特別企画展の開催を記念し、漱石の孫でマンガ・コラムニストとして活躍する夏目房之介さんにご講演いただきました。テーマは「漱石山房と漱石の絵 津田青楓『漱石と十弟子』をたどって」。映像資料を交え、企画展でも多く紹介した漱石の絵画について縦横にお話いただきました。

洋画家の津田青楓は漱石晩年の友人で、絵の指導もしました。房之介さんは、青楓の随筆から、漱石山房の自由で闊達な雰囲気を紹介されつつ、漱石が楽しんで描いた画は「ヘタウマ」ならぬ「ヘタヘタ」とされました。また、鏡子夫人や房之介さんのお父上で漱石の長男にあたる純一さんのことなど、ご遺族ならではのエピソードももうかがうことができました。

ほぼ満席となった500人収容の大会場も房之介さんの洒落なお話しぶりに魅了されました。



夏目房之介さん

文学講座

「漱石の遺した〈文学の力〉とは何か」

平成27年5月18日～6月22日(全6回)

北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」

梅光学院大学の生涯学習事業「アルス梅光小倉公開講座」との共催で夏目漱石に関する文学講座を開催しました。

もともと熱心な受講生を持つアルス梅光ですが、今回は全6回でのべ900人の方が参加されました。特に最終回、佐藤先生の講座は圧巻でした。

- ① 5/18 浅野洋さん (梅光学院大学 特任教授) 「漱石文学における原風景——『硝子戸の中』二十九章を軸に——」
- ② 5/25 望月俊孝さん (福岡女子大学 教授) 「漱石文学の哲学的基礎——則天去私の文学の道へ——」
- ③ 6/1 石井和夫さん (福岡女子短期大学 特任教授) 「漱石の実験——『草枕』と『夢十夜』——」
- ④ 6/8 中野新治さん (梅光学院大学 学院長) 「『土神と狐』(賢治)と『こころ』(漱石)——恋愛の『神聖』と『罪』——」
- ⑤ 6/15 清水孝純さん (九州大学 名誉教授) 「漱石とドストエフスキー——死の光学をめぐって——」
- ⑥ 6/22 佐藤泰正さん (梅光学院大学 客員教授) 「漱石における〈文学の力〉とは何か——その全作品を貫通するものをめぐって——」

夏目漱石探訪

日帰りバスツアー

平成27年5月22日

特別企画展共催の朝日新聞社が西部本社発刊80周年を記念した企画です。文学館企画展の観覧を皮切りに、同日熊本市で開催された姜尚中さんの講演「漱石と熊本」を聴講、熊本市内の漱石旧居をめぐり、コースを72名の方が楽しまれました。



朝日新聞社提供

MY FAVORITE SOSEKI

企画展会場で皆さんのお気に入りの漱石作品を教えてくださいました。

- 1位 「こころ」
 - 2位 「吾輩は猫である」
 - 3位 「虞美人草」
- 「こころ」は人の愛について改めて考えさせられ、人間の心をすごく描いている作品だと思いました。

(長谷加奈子さん 10代)
ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。詳しい内容は文学館HPでご紹介しています。

アンケート

・子規の絵と手紙を軸にしたものー見たかったので感激!

(70代女性 北九州市)

・自筆原稿や書画等はなかなか目にする機会がないのでとてもよかったです。実際に生きていた人なんだなあと感じることができました。

(40代女性 福岡市)

・朝日新聞に今、「それから」が連載中で毎日楽しみに読んでいます。作家、俳人、書画と多才な文人の漱石は、日本を代表する大作家だと思つ。代表作に協力された装丁、挿画の数々の画人の作品も大変見応えのあるものだった。展示作品の多さに感動しきり。

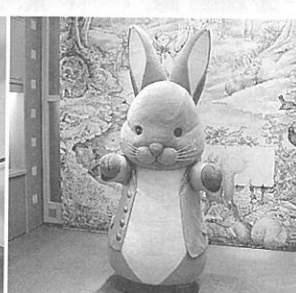
(70代女性 北九州市)

・北九州でこのような夏目漱石の企画が行われるとは思っていませんでした。内容も充実していて、門下生のことも触れてあつてとても面白かったです。

(20代女性 北九州市)

・最近文学館がいろいろ頑張つて企画を立てておられ嬉しいです。私は漱石が大好きで90%以上の作品を読んでいます、やはり「吾輩は猫である」と「三四郎」が好きです。すごい頭の良い方なのに日常生活では全く我々と同じ悩みを持って人間的ですね。

(80代女性 北九州市)



世界で一番有名なブルーのジャケツトがトレードマークのいたずらっ子、ピーターラビット。第一作『ピーターラビットのおはなし』に始まるシリーズは、全世界で累計2億5000万部を売り上げた大人気絵本です。文学館では今夏、ピーターラビットの世界を紹介する企画展を開催しました。

本展はピーターラビット研究で著名な大東文化大学の河野芳英教授にご監修いただいた、当館オリジナルのピーターラビット展です。

展覧会は、7つのゾーンで構成され、さまざまな視点からピーターラビットの魅力をご覧いただきました。

ゾーン1では作者、ビアトリクス・ポターの生涯を、資料と映像で紹介。ピーターラビットが生まれるきっかけとなった絵手紙(複製)や、初版本を展示しました。続くゾーン2では、ポターが暮らした、たくさんのお話を描いたイギリスの湖水地方を、キャラクターのイラスト、グッズ、人形、映像と併せて紹介。特にアメリカのドール作家、R・ジョン・ライト製作の人形は大変可愛らしく、ピーターといこのペンジャミン・バニーの人形は注目を集めていました。ゾーン3では、初期に刊行されたものや出版百周年を記念して出版された書籍を展示しながら、ポターの生涯を年表にまとめました。

またゾーン4では「海賊版」を取り上げました。著作権が権利申請を失念したことからは、アメリカでは多くの海賊版が生まれました。物語は原作に沿いながらも、絵が異なっているものやパロディなど、さまざまな「海賊版」を展示しました。ゾーン5では、日本で紹介されたピーターラビットをご紹介します。特に本展監修者の河野芳英さんが発見した「日本農業雑誌」掲載の「お伽小説・悪戯な小兎」は日本初であると同時に世界初の翻訳です。100年以上前の明治時代、オリジナルの刊行から4年後に翻訳されたことは非常に驚きです。またゾーン6では絵本への導入として、ピーターラビットシリーズの主なものをパネルで紹介しました。最後、ゾーン7では、今回、資料をお借りした大東文化大学のビアトリクス・ポター資料館を紹介。ポターが住んだヒルトップ農場を模して造られた建物は、ピーターラビットの世界そのもの。近くにお越しの際には訪ねてはいかがでしょうか。

展覧会を通じて、出版から100年を超えてなお、皆様に愛されるピーターラビットの魅力を確認しました。

【主催】北九州市立文学館

【監修】河野芳英(大東文化大学教授)

【協賛】三菱UFJ信託銀行株式会社

展示資料点数#約1500点

(担当 稲田)

開会記念講演会

7月18日、開会を記念して本展監修者で大東文化大学教授の河野芳英さんの講演会を開催しました。

作者・ビートルクス・ポターの生涯、ピーターラビットの成立と、それにまつわる多くの学説を紹介されました。

特に印象的だったのは、なぜ英語のタイトル『The Tale of Peter Rabbit』で、「story」ではなく「tale」が用いられているのか、の説明でした。河野先生は、この「tale」は掛詞になっていると説明されました。「tale」は「おはなし」という意味ですが、同音異義語の「たれ（しっぽ）」と掛けられており、絵本の始めの絵にはお母さんうさぎと、ピーターたち四匹の子どもが描かれますが、お母さんと一匹は可愛い尻尾を見せています。

映像を用いて、時に小喃を交えながらのお話に、笑い声も聞こえる講演会となりました。



河野芳英さん

絵本のよみきかせ会

8月5日、午前と午後の二回、勝山ポツポおはなし会さんがピーターラビットを中心にしたよみきかせ会を行いました。おぼけの手遊びやパネルシアターで盛り上げ、『ピーターラビットのおはなし』『ベンジャミンバニーのおはなし』を読み、最後、新聞紙を使った一枚の紙の物語を披露されました。集まった子どもたちは熱心にお話に聴き入り、また一緒に新聞紙遊びをするなど楽しい時間を過ごしました。

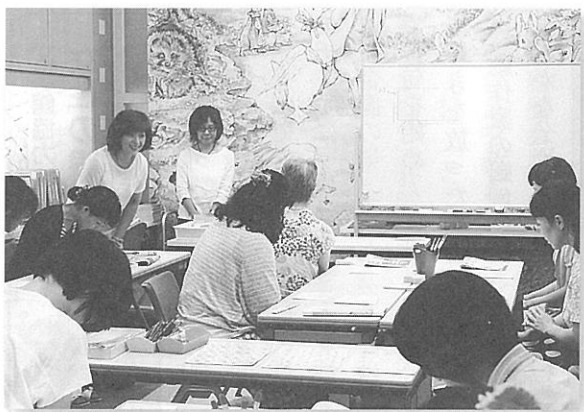


よみきかせ会の様子

ピーターラビットをモチーフにしたカルトナーージュ教室

8月8日、ピーターラビットをモチーフにしたカルトナーージュ教室を開催しました。カルトナーージュとは、厚紙で組み立てたものに紙や布を張り付けるフランスの伝統手芸で、今回は福岡市で教室をされている辻塚雅子さんを講師にお迎えし、ミニアルバムを作りました。

参加者は、完成形をイメージしながらポンドやはさみを使って、みなさんだけのオリジナルのアルバムを作り上げられ、とても満足そうでした。終了後はアルバム最初の一枚を、ピーターと一緒にパチリ。今年の夏の良い思い出になったことと思います。



カルトナーージュ教室の様子

ピーターと一緒に！写真撮影会

7月25日、8月2日、8月22日の午前と午後の二回、ピーターとの記念撮影会を行いました。可愛いピーターが登場すると、会場からは「可愛い」の声。ピーターにくっついて離れたがらないお子さんもいて大人気でした。



参加された小倉北区在住のいなだはるきちゃんとわたなべほのかちゃん

アンケート

・とても楽しく観させて頂きました。大人でも子供でも興味のわく、とても良い展示だと感じました。

(30代・女性)

・海賊版の展示が面白かったです。日本での昔の翻訳も。ピーターのお父さんがパイにされてしまった話が省略されていたりするのが面白いです。商品販売も色々あり、見て楽しめました。

(40代・女性)

・とてもラビットがかわいかったです。またあつたら見たいなあと思いました。

(10歳・女性)

子ども俳句講座

8月26日(水)

夏休み子ども俳句講座を開催しました。応募した子ども達は北九大インターンシップの種野響さんや友の会ボランティアのランティアさんと一緒に講師の岸原清行さん(福岡県俳句協会会長、『青嶺』主宰)から俳句の基礎を学んだ後、勝山公園平和祈念の碑(長崎の鐘)や小倉城を回り、草花、昆虫等を観察し、俳句の季語を探す「吟行」を行いました。

その後作句して発表、最も良いと感じたものを一人二句選ぶ「選句」を行いました。前日台風が通過したためか、台風に関する句がたくさん詠まれました。豊かな感性を十七文字に込め、課題とされた一人五句より多く十句以上詠む子どももいました。

選句上位の句

・台風はいつでもこわいあくまかせ

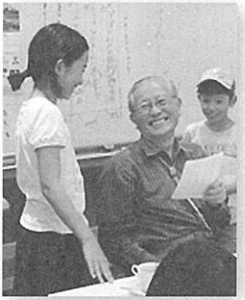
(富永美結さん)

・ゆりのはなかなしいせんそうやめたいな

(岡本知佳さん)

・木の間入道雲がのぞいてる

(安河内希音さん)

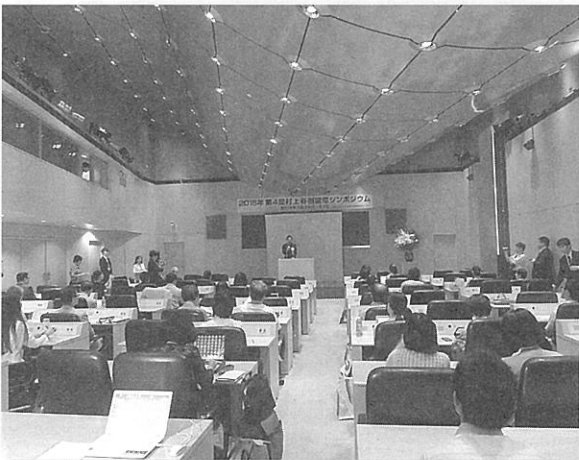


文学館協力事業 村上春樹国際シンポジウム

平成27年7月25日(土)〜27日(月)

北九州国際会議場

台湾淡江大学に2014年にオープンした世界初の「村上春樹研究センター」の来日プロジェクトの一環として開催されました。(村上春樹文学における「両義性」をテーマに、森正人さん(熊本大学名誉教授)、柴田勝二さん(東京外国語大学教授)、小森陽一さん(東京大学教授)の一般公開による基調講演や、参加者の論文発表が行われました。代表の曾秋桂さん(台湾淡江大学教授)は、ネットワークを広め多分野からの村上春樹の研究を進めていきたいと話していました。



文学館協力事業 女性の眼と句で綴る演劇 「花、盛ル」

平成27年8月29日、30日

北九州芸術劇場小劇場

北九州で作られた「女性の俳句」をモチーフに、現代を生きる女性を描く連続企画の第一弾です。今回は、小倉で俳句を始め、女性俳句の草分けとして輝きを放った杉田久女の句をもとに、劇作家の鶴飼秋子さん(劇団ユニツトさかな公団)が作・演出を担当されました。

ドラマチックな久女の生涯は、これまでも舞台化を重ねてきましたが、今回は「久女の俳句」を眼目にした演劇です。現代女性たちのストーリーが、久女句にインスパイアされながら演じられました。笑いあり、批評性ありの内容は、観る人にさまざまなことを考えさせる新しい試みです。この企画は来年度も継続の予定です。乞うご期待ください。



撮影：重松美佐 北九州芸術劇場提供

劇団青春座創立70周年記念「久女の恋」

平成27年5月23日、24日
北九州芸術劇場中劇場



長い歴史を持つ北九州市の市民劇団・青春座の70周年記念公演です。青春座では過去にも杉田久女の舞台を持ちましたが、今回はさらに進んだ研究の成果を取り入れ、時代の制約の中、女性の表現者として苦悩しつつも一途に俳句の高みを目指した久女の半生を新しい脚本で書きました。初日の公演には北橋健治北九州市長と久女のご遺族の石太郎さんがそろって観劇されました。

心輝書道会選抜成華支部展 「生誕二百二十五年 杉田久女の句を書く」

平成27年6月3日〜9日

北九州芸術劇場市民ギャラリー

北九州市内で活動される心輝書道会(吉田月華代表)が、杉田久女の俳句を作品化する書道展を開催しました。



文学館セミナー

平成27年度前期

平成27年4月～9月

今期は、くずし字講座と外国文学の二つの新講座を交え開催しました。実施概要は以下の通りです。

○書く 講師：後藤みな子さん（作家、北九州文学協会理事長）……原稿用紙4枚程度のエッセイを発表し講師のアドバイスを受けた。参加15名

○知る 講師：渡瀬淳子さん（北九州市立大学准教授）……「百人一首」を題材にくずし字の基礎演習を行った。参加15名

○読む（日本文学） 講師：倉本昭さん（梅光学院大学教授）……上田秋成「雨月物語」を原文で読解した。参加20名

○読む（外国文学） 講師：岩本真理子さん（北九州市立大学教授）……ドイツ詩人（ゲーテ、ハイネ、リルケ）の作品を読解した。参加20名

平成27年度後期
平成27年10月～平成28年3月
書く 講師：後藤みな子さんの文章講座。参加15名

知る 講師：渡瀬淳子さんのくずし字講座。参加15名

読む（外国文学） 講師：岩本真理子さんのドイツ詩の世界。第3土曜 定員30名

※時間はすべて13時30分～15時

『文学館文庫9』

みずかみかずよ作品集 刊行

北九州市（旧八幡市）出身の児童文学者みずかみかずよの生誕80年を記念し、「文学館文庫9」を10月に刊行します。少年詩集『こえがする』（1983・3理論社）、童話『新装版 ごめんねキューピー』（2005・7石風社）のほか、教科書に採用された詩を収録しています。

『こえがする』は、三冊目の詩集で、教科書にも採用された「ふきのとう」、「金のストロー」、「馬でかければ」を含む67作品が収録されています。

『ごめんねキューピー』は、幼い頃に両親を亡くした自身の経験が盛り込まれた童話です。親戚の家で生活することになった主人公よしこさんの複雑な心情と、彼女を見守る周りの大人の優しさがこまやかに描かれています。文庫は、文学館および書店クエストで販売しています。今回から、既刊の文庫より大きい判型で読みやすさにも配慮しました。ぜひお手にとってお読みください。



みずかみかずよさん

上半期に行われた「偲ぶ会」の紹介

北九州では文学者たちを偲ぶ集まりが多く開かれています。今年の上半期に開催されたものをご紹介します。

○みずかみかずよ誕生祭

4月1日 小伊藤山公園

「ふきのとう」詩碑前

○第33回岩下俊作忌

4月12日 高炉台公園

岩下俊作文学碑前

○第30回劉寒吉碑前の集い

4月20日 文学館前

劉寒吉文学碑前

○第53回森鷗外を偲ぶ会

6月19日 紫川沿い

森鷗外文学碑前

○第2回宗左近忌

6月20日 北九州市立美術館本館

宗左近文学碑前、講堂

○第34回林芙美子忌

6月28日 門司区

小森江西市市民センター

今年度は児童文学者のみずかみかずよの生誕80年を記念した誕生祭が催されました。

北九州ゆかりの作家たちに思いを馳せるそれぞれの日、作品を手に来年、参加されてみてはいかがでしょうか。

浦橋七郎の戦時記録集刊行

『不朽艦の航跡 伊号第二十九潜水艦 上院日誌他』（倉本美代子編集発行）



ゆかりの歌人・浦橋七郎が戦時中に書き遺した記録ノートがこのたび、ご遺族の手によって活字化されました。浦橋は呉海兵団に入隊、潜水艦乗りとなり、洋上でインド独立の指導者チャンドラ・ボースを迎えた経験を持ちます。本書にはその折の記録も記されています。購入希望は北九州市内の書店クエスト（093-522-3914）まで。

お悔やみ
●田中種昭さん（平成27年5月8日）
私設美術館「筑前・染と織の美術館」（若松区）館長。社会教育功労者表彰受賞。文学館イベント「自分史を語る」（第14回）ゲスト出演。
●本村義雄さん（平成27年8月4日）
元北九州市立児童文化科学館館長。口演童話活動により久留島武彦児童文化賞、西日本文化賞、吉川英治文化賞など受賞。文学館イベント「自分史を語る」（第2回）ゲスト出演。

ブンガク最前線

北九州発

平成27年10月24日(土)

平成28年1月11日(月)・(祝)

北九州にゆかりがあり、現在活躍している作家35名とその作品を紹介し、その魅力を伝えます。

来年北九州市立文学館は開館10周年を迎えます。節目の年を前に、現在執筆活動を続けられている作家の方々の直筆原稿、執筆ノート、イラスト原画、書籍など約400点を展示。

北九州発！個性豊かな作家たちの活動をご覧ください。

イベント案内

◆新聞記者による開会記念座談会

大矢和世さん(西日本新聞)、鳥居達也さん(朝日新聞)、右田和孝さん(読売新聞)、米本浩二さん(毎日新聞)、進行 今川英子
日時 10月24日(土) 11時～12時30分
場所 文学館交流ステージ

◆リリー・フランキーさん開会記念トーク

日時 10月24日(土) 16時30分～17時45分
場所 文学館交流ステージ
※「東京タワー」オカンとボクと、時々、オトン」の原稿寄贈式も行います。



◆村田喜代子さん講演会

日時 10月29日(木) 13時30分～15時
場所 北九州芸術劇場小劇場

◆対談(高橋睦郎さん×伊藤比呂美さん)

日時 11月20日(金) 13時30分～15時
場所 旧大連航路上屋 2階ホール
※門司港「揺らぎ」の芸術祭2015との協働開催
西日本新聞社共催

◆対談(平野啓一郎さん×田中慎弥さん)

日時 11月27日(金) 13時30分～15時
場所 北九州芸術劇場中劇場
毎日新聞社共催

◆平出隆さん講演会

日時 12月11日(金) 13時～14時30分
場所 西日本工業大学
西日本工業大学共催

◆文学館での講演会

後藤みな子さん、福澤徹三さん、棧比呂子(佐々木博子)さん、まはら三桃さん
日時 11月7日(土)・11月14日(土)・11月28日(土)、12月19日(土)の全4回
場所 文学館交流ステージ

※イベントには申込みが必要な場合があります。詳しくはチラシやHPでご確認ください。

寄贈者・提供者

青野長幸、青森県近代文学館、秋山香乃、秋吉久紀夫、石田忠彦、市川市文学ミュージアム、一条真也、伊藤比呂美、伊藤通明、いわき市立草野心平記念文学館、大関歌子、太田綾子、大田区立郷土博物館、大野達郎、岡田功、小川未明文学館、尾道市文化協会、片山亀夫、神奈川近代文学館、加納朋子、鎌倉文学館、神沢利子、菊池寛記念館、北川透、北九州市立松本清張記念館、(株)伊國屋書店、清原雅彦、倉本美代子、群馬県立土屋文明記念文学館、弦地域文化支援財団、興膳克彦、河野幸子、後藤みな子、五味潤典嗣、近藤晋平、佐伯タズ子、佐々木博子、佐藤まなつ、事業構想大学院大学、白根友吉、世田谷文学館、川内まごころ文学館、仙台文学館、船団の会、竹下文子、千倉書房、暹筆堂文庫、壺井栄文学館、鶴岡市立藤沢周平記念館、出来谷通保、寺井谷子、東京都江戸東京博物館、徳島県立文学書道館、刀根博樹、鳥越碧、中新田バツハホール、長塚節研究会、長野ヒデ子、中原中也記念館、中村青史、夏目房之介、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、日本短歌協会、能村研三、梅光学院生涯学習センター、花田理枝、林えいだい、葉山修平、原武哲、姫路文章表現研究会、平出隆、福井県ふるさと文学館、福岡市文学館、福岡市総合図書館、福澤徹三、ふくやま文学館、藤野千夜、編集工房ノア、北海道立文学館、本庄幸市朗、前橋文学館、増田周子、松ヶ江郷土史会、まはら三桃、水上平吉、三苦知夫、宮崎路夢、村松恭子、森鷗外記念会、森鷗外記念館、柳生じゅん子、山田稔、やまなし文学賞実行委員会、行橋市歴史資料館、わたなべじゅんこ、(株)集英社学芸編集部

提供雑誌

藍、SANDRO、青嶺、馬酔木、花鶏、あん、イブリスII nd、色鳥、海、海鳴り、沖、海峡派、北九州国文、九州作家、九州俳句、九州文学、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、沙漠、七曜、自鳴鐘、船団、川柳くらがね、川柳むらさき、小さい旗、天籟通信、菜焔火、虹野、ひびき、水城野、八雁、與謝野晶子研究

子どもノンフィクション文学賞作品募集!

11月29日(日)まで (消印有効)

小・中学生を対象に、身の回りで本当にあった話、自分の体験談や取材した真実の話を書いた「ノンフィクション」の作品を募集しています。400字詰め原稿用紙で小学生の部は5～20枚、中学生の部は5～50枚。詳しくは文学館まで。

2015年10月1日 発行
北九州市立文学館
〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
http://www.kitakyushu-city-bungakukan.jp/

■開館時間 9:30～18:00 (入館は17:30まで)
※平成26年4月1日から
平日の閉館時間に変更になりました。
■休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始



- JR小倉駅より徒歩15分
- JR西小倉駅より徒歩10分
- 勝山公園バス停より徒歩1分
- 北九州市役所前バス停より徒歩2分
- 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
- 北九州市都市高速大手町ランプより2分
- 駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい